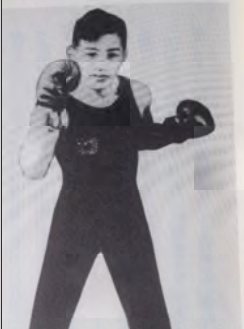


矢板が主んだ偉人の①

このコーナーでは、これまで「矢板のお城めぐり」「長峰公園内の石碑紹介」「高原山ものがり」を掲載してきましたが、今回は矢板が生んだ偉人たちの紹介をしてみたいと思います。まず第一回目は、「日本ボクシングの父」と呼ばれた渡辺勇次郎です。



勇次郎は、明治二十一年十一月に安沢で生まれ、十九歳の時に貿易商を志して単身アメリカに渡り、サンフランシスコで働きながらボクシングを学び、「ヤング・ワタナベ」のリングネームでデビュー。カリフォルニア州のチャンピオンになるほどの活躍をしました。十五年間修行した後、大正十年に帰国し、そ

の年の十二月に下目黒に日本初のボクシングジム「日本拳闘倶楽部」を創設。ここで、ピストン堀口や笹崎たけしといった名選手を育て上げました。また、昭和三年にアムステルダムで開催されたオリンピック大会では、監督として二人の選手と共に参加、これが、日本のボクシング選手がオリンピックに初参加した記念すべき大会でした。その時に着用したユニフォームやアムステルダムと明記された自作の彫物が、生家に遺されています。



昭和二十一年の東京大空襲でボクシングジムを焼失し、安沢に疎開してここで十年間過ごしました。やがて終戦を迎えると、ボクシングに対する情熱が蘇り、宇都宮市や小山市にジムを開設し、選手育成に努めました。この間に日本体育協会や栃木県警察学校の顧問などに委嘱されています。また、片岡駅近くの大畑屋旅館にもジムが開かれ、地元の高校生が通っていたそうです。そのうちのお一人である築瀬さん(八十五歳)は「先生のもとに三年間通いました。それで、お前は筋が良いから東京に来说われましたが、長男であったために諦めざるをえませんでした。」と語っていました。

そして、昭和三十一年六月二十八日に六十八歳で亡くなりました。墓地は、港区高輪の東禅寺にあります。最後に、勇次郎の人となりを表すエピソードを一つ紹介しましょう。それは、片岡村の公民館運営審議会委員に委嘱されていた時のことです。時間には非常に厳しい中で、会議の開催が五分でも遅れると帰ってしまっただけです。

(T・S)

吹矢で健康増進

スポーツウエルネス吹矢 矢板教室

今回は、健康で安全な生涯スポーツとして全国に広まったスポーツウエルネス吹矢をご紹介します。なすの支部矢板教室で指導をしている湯澤正樹さんにお話を伺いました。



●スポーツウエルネス吹矢とは
一ゲーム五本の矢を六、十メートル先の向かい吹き、得点を競います。高齢者ばかりでなく、子どもやハンデキャップを持っている方も楽しく対等に競うことができます。正しい基本動作は、一矢吹くごとに、二度深く腹式呼吸をする基本動作を繰り返します。息を吸う時には、吹矢の筒を耳の後ろまで持ち上げると、大きく息が吸えます。



●矢板教室の会員数は
私自身が吹矢に興味があり、平成二十九年十月になすの支部に入会しました。矢板市にも吹矢を広めたいと思いい、平成三十年八月に勤労青少年ホームにて、「なすの支部 矢板教室」を三人で始めました。メンバーが徐々に増え、現在二十一人(男性十二人、女性九人)になったので、来年四月に矢板支部として独立する予定です。最年長は八十四歳で、六十代から七十代の方がほとんどです。

●今後どのように広めたいですか
知名度を上げていくために体験教室を開催しています。体験したい方は、ご連絡をいただければ指導員や会員が直接、指導します。定期的に沢の農村環境改善センター(毎週日曜日)と片岡公民館(月二回水曜日)で教室を行っていますので、お気軽にお越しください。

(記者の体験談)
見るよりやった方が良いと薦められた。一番近い六メートルの位置から的に向かって吹き方を教わりました。的の中心には当たりませんが、五本中四本は的中に命をかけた練習すれば上手になるかも？

【連絡先】
矢板教室 湯澤正樹
090-9822-7367

(編集後記) 新元号「令和」になり早一ヶ月が過ぎましたね。新たな時代でも何より平穏無事に生活できますようにと祈るばかりです。身近な情報誌として明るく元気なニュースをお伝えしていきたいです。皆様からのご一報お待ちしております。(M・W)